

研究の概要

(1) 研究主題

主体的・対話的な学習を通して、自分の考えを表現できるこどもの育成

～ユニバーサルデザイン化を目指した授業づくり～

(2) 主題設定の理由

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が激しく、予測困難な時代となってきている。急速な社会の変化の中で、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識できる自己肯定感を育むなど、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。これからの時代に必要な資質・能力を育むために、昨年度から実施された新学習指導要領では「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の3つの視点からの授業改善が推進されている。

本校では「元気いっぱい 笑顔かがやく 若葉っ子」を目指す子ども像とし、確かな学力を積み上げるために日頃から「考える」習慣をつけさせたり、「若葉授業」の共通実践を行ったりしている。昨年度は「主体的な学び」、「対話的な学び」の視点を持ち、授業のUD化の手立てを工夫しながら、国語科「書くこと」の研究に取り組んだ。その結果、目的意識や相手意識をはっきりさせたり、学習の見通しをもたせたりすることで学習意欲が高まり、主体的に書く活動に取り組む児童が多くなってきた。また、語彙力を高めるための言葉や児童が書いたワークシート等を共有化したり、教師モデル文を提示したりと「授業のUD化」の手立てを工夫したことで書く力が高まってきた。しかしながら、「対話的な学び(友達タイム)の工夫」では、児童の実態や学習過程に合わせて効果的に行う、といった部分で課題が残った。

本年度は、昨年度取り組んできた国語科「書くこと」の研究を継続して行うとともに、鳥栖市教育委員会より「教育課程特例校における教科「日本語」を中心とした小中一貫教育に関する調査研究」の委嘱を受け、教科「日本語」についても同様の視点をもって研究に取り組みたい。昨年度までの研究の蓄積を生かしながら、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「授業のUD化」の視点から授業改善を目指し、学習面で支援が必要な児童であっても意欲をもって学習に取り組み、書く力を高め、自分の考えを表現できる児童を育成したいと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究目標

国語科・教科「日本語」の学習において、自分の考えを表現できる子どもを育てていくための効果的な指導方法の在り方を探る。

(4) 研究仮説

国語科の領域B「書くこと」・教科「日本語」の授業において「主体的な学び」、「対話的な学び」

の視点から授業改善を行い、児童全員が「分かる」、「できる」ように授業のUD化の手立てを工夫していけば、書く力や自分の考えを表現する力を身につけることができるであろう。

(5) 研究内容

ア 主体的に学ぶための手立て……………学習意欲をもたせる工夫、学習の見通しをもたせ、自分で課題設定ができる手立ての在り方

イ 対話的な学び(友達タイム)の工夫…発達段階・学習過程に応じた友達タイムの工夫、これまでの国語科・特活での研究をいかした手立てを深める

ウ 授業のUD化を目指す……………焦点化・視覚化・共有化を意識した授業作りを行ったり、学習者用端末・電子黒板等のICT機器を活用したりし、児童全員が「分かる」、「できる」授業にするための手立ての在り方

(6) 研究組織

ア 全体会……………全職員で研究協議会を行い、必要に応じて講師を招聘し、研究を深める。

イ 研究推進委員会……3部会の1つである「確かな学び部」に研究推進委員会を置き、校長・教頭・確かな学び部員で構成し、主に研究の方向や方法について協議し、実践的研究のための計画立案・連絡調整を行う。

ウ 学年部会……………低学年・中学年・高学年・特別支援学級の学級担任及び級外で構成し、実践的研究を行い、本研究を検証する

(7) 期待される研究の成果

ア 児童が見通しをもって粘り強く学習に取り組めるようになり、自己の学習活動を振り返り、次の学習につなげられるようになるであろう。

イ 学習過程に合った友達タイムを効果的に仕組みれば、児童が自分と他者の意見や考え方を比較したり、様々な考えに触れられるよさを認識したりし、考えを広げたり深めたりすることができるようになるであろう。

ウ 授業のUD化を目指した「若葉授業(つかむ、考える、深める、まとめる)」を行い、手立てを工夫することで、どの児童も全員が分かりやすい授業となり、自分の考えを表現する力を身につけることができるであろう。